



[様式第3号]

資料提供年月日	令和4年6月30日	
問い合わせ先	課名	産業政策課
	電話	直通 803-1342 内線 4514
担当者	職名・氏名	課長代理 二ノ宮 和人
	職名・氏名	係長 松田 将治

## 広 報 連 絡

<市長記者会見資料>

### 1 件 名

「GovTech Challenge OKAYAMA 2022（先進技術社会実証支援事業）」の公募を開始します

### 2 事業の内容

「GovTech Challenge OKAYAMA」とは、岡山市が抱える社会課題、行政課題について、最先端のテクノロジーや斬新なアイデアで課題解決の提案をしてくれるスタートアップを公募し、岡山市職員と協働で最適な解決手法を見出し、製品・サービスとして構築・実証までを行う事業です。

なお、本事業は中四国の市町村としては、初めての取り組みです。

### 3 事業の目的

スタートアップの成長支援と岡山市が抱える社会課題、行政課題の解決を目的とします。

<スタートアップ側のメリット>

- ・岡山市が持つ社会実証フィールドを活用することで自社のビジネスプランのニーズ把握や実用性の向上が見込めます。
- ・自社のビジネスプランが実用化に至れば、ブランド力の向上や同じ課題を抱える他市町村への横展開も期待でき、実際に、他の自治体では、事業を通じて開発されたプロダクトやサービスが本格導入につながる事例がでています。

<岡山市側のメリット>

- ・スタートアップが持つ最先端のテクノロジー等により、行政職員だけでは思いつかないような切り口での課題解決を目指すことができます。

(裏面あり)

※ スタートアップとは、革新的なアイデアや独自性で新たな価値を生み出し、社会にインパクトを与える企業。一般的には、短期間のうちに急激な成長と株式上場や大企業による買収などを目指す企業を指すが、本事業ではそれに限らず、社会課題を解決するための新しいアイデアや技術を持ち、その事業を拡大、成長させたいと考える企業（「ゼブラ企業」という。）もスタートアップに含むものとしている。

#### 4 公募期間

令和4年6月30日（木）～令和4年7月29日（金）

#### 5 公募する課題

別紙のとおり

#### 6 対象事業者

本市職員との協働による IT を活用した地域・行政課題の解決と新ビジネス・サービスの創出を目指すスタートアップ（ゼブラ企業を含む）

#### 7 実証支援金

課題解決のための取り組みに要する経費に充てるために最大50万円を支給します。

本事業では、既にスタートアップが持っているプロダクトやサービスをベースにした提案がされることを想定しており、実証支援金は、社会実証で行うモニタリングやプロダクト改修などの経費を支援するものです。

#### 8 説明会の実施

本事業の詳細についての説明会を令和4年7月13日（水）16時からオンラインで実施します。

#### 9 説明会及び本事業への応募方法

以下のホームページからご応募ください。

URL：<https://www.city.okayama.jp/jigyosha/0000037586.html>

#### 10 問い合わせ先

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1

岡山市産業観光局商工部産業政策課

Tel：086-803-1342

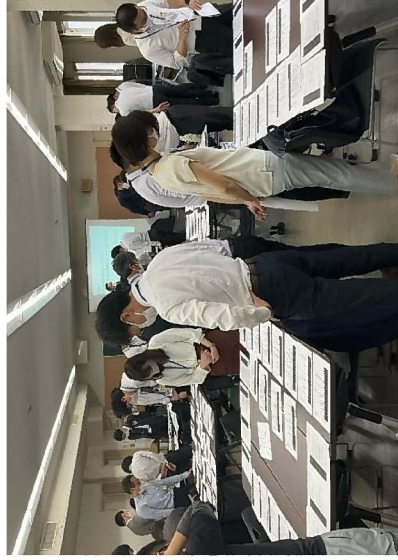
e-mail：sangyouseisaku@city.okayama.lg.jp

## GovTech Challenge OKAYAMAの概要

- スタートアップと市職員が協働して行政課題や社会課題の解決に取り組むことで、スタートアップの成長と市の課題解決を目指す取組
- スタートアップは、市が持つ社会実証フィールドを活用して、自社のプロダクトやサービスの実用性をブラッシュアップして、事業成長を図る。
- 実証実験を行う費用の一部を岡山市が負担し、事業の実効性を高める。

## 事業スケジュール

### 庁内課題募集



R4年4月  
職員向け事業説明会の開催

R4年5月  
課題を持つ各課より課題提案の募集  
(11課より提案あり)

R4年6月  
スタートアップが興味を持ち、実証の効果期待できる課題を選定  
(5課 5課題)

### スタートアップ募集・選定



R4年6月30日(木)～7月29日(金)  
課題に取り組むスタートアップを公募  
(5課 5課題)

R4年7月13日(金)  
応募企業向けオンライン説明会開催

R4年7月末～8月下旬  
書類審査、面談  
課題に取り組むスタートアップを採択

## 事業のしくみ

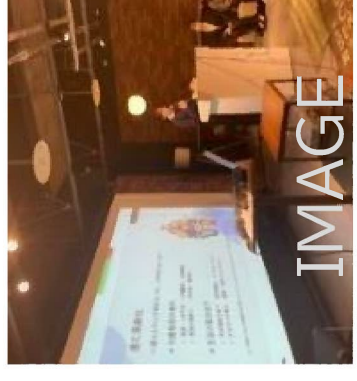


### 実証実験



R4年9月頃～R5年2月頃  
市職員とスタートアップが協働で社会実証に取り組み、課題解決のためのプロダクトやサービスを開発する。

### 成果発表



R5年3月頃  
成果発表会の実施  
翌年度以降  
実証実験の結果を踏まえ、随意契約などによる本格導入の可否を判断



## 文化・芸術をもっと身近に！参加したくなる仕掛けをつくりたい！

「岡山市芸術祭」や「おかやま国際音楽祭」など、岡山市では文化・芸術に関わるイベントの開催を長く行っている。市民参加型の「岡山市芸術祭」はなんと60年もの歴史が！しかし、参加者が固定化されており、関心を持つ層も限られている。これまでに参加する機会がなかった若手アーティストが参加しやすくなるようなイベントにすることで市民の関心度も高めたい。



## 町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と持続可能な地域づくりを目指す！

防犯灯や集会所、コミュニティ備品等、町内会で必要となる経費の補助を市で行っているが、補助金の種類が多いうえにそれぞれで手続き方法が異なるため、町内会役員にとって負担が大きい仕組みとなっている。また、申請が紙ベースのため区役所側の業務負担も大きい。申請を電子化するなどして申請に係る負担を削減し、町内会活動の持続性を高めたい。



## 早めの対策でいつまでも健康に！フレイル健康チェックを広げていきたい！

現状、薬局や地域の通いの場でフレイルチェックを行っており、希望があれば介護予防センターで個別指導を行っている。市内の高齢者でフレイルチェックを受けている方が少数にとどまっているため、フレイルチェックをする人を増やしたい。



## 海ごみはどこからやってくる！？上空からの画像の解析により河川流域をモニタリングしたい！

瀬戸内海には、年間総量4,500トンものごみが陸からの流入や外界からの流入によって生じており、そのほとんどがプラスチックごみである。市内には調査によって把握されている河川等のごみのホットスポットが200以上あり、ごみの撤去やモニタリングをしておくためには多大な労力と費用がかかる。



## 通行量データから岡山のまちなかを活性化したい！AI通行量調査の有効性検証

現在行っている通行量調査は平日・休日の計2日間のみのカウントであるが、オープンデータとして公開しており、年間1,000件程度ダウンロードされている。岡山市のまちなか活性化に向けて、AIカメラなどの技術によりリアルタイムの通行量調査を行った際のデータ活用ニーズの可能性について検証したい。

